

9月29日(土) 14:55~16:25

文化情報学部

すきから としお
鋤柄 俊夫 教授

近世城郭のデータ分析で学ぶ日本の歴史

メッセージ

歴史研究は日本に元気を与えることができます。

概要

皆さんがこれまで学んできた日本の歴史は、各時代の首都に多く残された文献史料をもとにして明らかにされてきた、いわば首都の歴史が中心でした。けれども日本列島の各地では多くの人々が、さまざまな生産活動や商業活動をおこない豊かな文化を醸成していました。そんな日本列島全体の歴史を学ぶためには文献史料だけでは足りません。そこで現在の歴史研究で注目されているのが文献史料以外の様々な文化資料です。これまでは考古学の資料がその代表とされてきましたが、現在は石造品や仏像などの美術工芸品、建造物や民俗資料そして地理や地名なども同じ非文献史料型の資料としてとらえ、それらを総合して研究することが研究目標になっています。

それではこれらの資料はどのように研究するのでしょうか。文献史料は「文字」を読解しますが非文献史料型の資料は「形」を読解します。ここではその見本として日本列島各地にある近世城郭の縄張りの形を例に、全国各地に元気を与える、これからの歴史研究の姿を垣間見てもらいたいと思います。